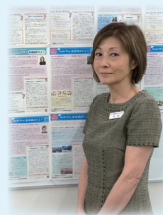


日本とちょっと違うよ - 通訳者よもやま話 - Vol.2 英語担当 本田さん

英語通訳は、英語圏だけではなく広い地域の患者さんと接する機会が多いので、国や地域によって特別な健康問題があるのだと驚くことがあります。

インド人の子供さんの通訳をした時のことですが、母親が「この子はしょっちゅう扁桃腺を腫らす。体が弱い。血液検査でビタミンDが足りているか調べてください」と頼まれました。医師は「小さい子供に針を刺して採血するなんて、必要のない検査はできません」と断られました。しかし、母親の説明ではインド人はビタミンD欠乏症が非常に多いというのです。「日光の強い国でビタミン不足？」と不思議に思ってネット検索してみるとインド国民の4割がビタミンD欠乏症で、主な原因は日光不足だそうです。国民のほとんどは夜明けから夕方までほぼ一日中室内で生活することが多く、健康に必要な日光に当たる機会が奪われ、ビタミンDが激減しているそうです。皮膚の色が濃い人は20～30倍が必要なので問題は深刻です。



また、南アジアや途上国ではビタミンだけではなく、鉄、ヨード、ミネラルなどの不足による貧血も大きな健康問題であることを知りました。鉄欠乏性貧血は子供の知的発達にも強く影響します。以前、3歳近くになるのに立てない、話せないという南アジア圏の子供さんがいました。詳しい検査の結果、子供さんが極度の貧血状態であったことが分かりました。ご両親には、どうしてもっと早く貧血を見つけてくれなかったんだ！と嘆かれました。その後、鉄剤の投与が始まり、つかまり立ちができるまでに成長しました。変化の速さに貧血って怖い病気なんだと認識した経験です。

日本でも在宅ワークの拡がりや日光を浴びる機会が減っている人が増えています。ビタミンD不足は他人ごとではありませんね。日光浴ができないと体内時計が狂ってうつ病の原因にもなるそうです。日焼けを気にせずしっかりと日光浴したいですね！



今月のピックアップ

「花粉症—これって日本だけ？」



寒い冬が終わり、春爛漫のいい季節、と言いたいところですが、この時期になんとも残念なのが「花粉症」。コロナ前は、春に日本の桜を楽しもうとして来日された外国人が、「なんでこんなにくしゃみが出るの？」「目がかゆくてたまらない！」と医療機関に駆け込むケースが頻繁にあったそうです。さて、このつらい花粉症、日本だけですか？

通訳者たちによると、**北米やヨーロッパ**には花粉症があり、例えばアメリカではスギは多くなくても樅や楓、それからお家や公園に青々と敷き詰められた芝生からも様々な花粉やチリ・ホコリが舞い上がって、「Hay Fever (枯草熱)」という立派な病名があるそう。**スペイン**では5月～6月にオリーブの花の花粉症が多いそうですよ。

ところ変わって**南米**では花粉症はない様子。アルゼンチンにいた通訳者は、日本に来るまで「花粉症」や「アトピー」は周りにいなかったそうです。ブラジルやペルーでも縁がない疾患だったそうですが、面白いのは「日本に来てから花粉症を発症」した人がたくさんいること。患者さんたちは日本語のまま「kafunsho」とおっしゃるそうです。

中国やベトナムでも花粉症はない、もしくは多くない病気ですが、さすが日本との往来の多い国ですから、「来日＝発症、離日＝回復」を繰り返している人がたくさんいるようです。ひどい花粉症が現地に着いた途端ピタリと治まったのに、日本に戻るとまたすぐ症状が出たという人から、日本にいる頃はかなりの花粉症だったのが海外生活が長くなると治ってしまった、という人まで！コロナでマスクは当たり前になりましたが、マスクも外せるいい風景が待ち遠しいです😊



～創業70周年を迎えました～

東和エンジニアリングは、1952年東京の亀戸に「東和電気商会」として設立されました。「東和」は、太陽は「東」から昇る、企業は人の「和」であることに由来しています。真空管のラジオ、テレビの販売から始まりICTの企業として「Borderless×Connected×Creative with Fun」を合言葉に70年目を迎えました。東和通訳センター Medi-Way は2015年に開設され、国内で開催された全てのサミットの同時通訳サポートなどのノウハウや通信技術を背景に、顧問医師の支援により今に至ります。多文化共生の現代において、誰もが「安心」を感じていただけるオンライン医療通訳サービスを今後も目指してまいります。

